

合○中略

近江國 滋賀郡保良庄四十町之内、領知十四町、殘國領○中

已上九箇庄、大體有名无實、或被國領、或被人領、或半分、或三分之一也、然而就庄號注進之、

一顛倒庄々○中

近江國 栗太郡世多庄在流記 甲賀郡椋部郡郡恐 栗村在流記 滋賀郡古津庄在流記

野洲郡柴井庄在流記 已上二十七處、依流記公驗明白注進之、

右依宣旨注進如件、

建久二年五月十九日○署

〔近江國輿地志略三十三〕栗津庄 栗津七村と稱し、西莊木下膳所中莊別保、鳥居川に馬場を加へ

て七村といふ、或は此中鳥居川を除き、松本を加へて栗津七村とも云、然れども舊記を按ずるに、

栗津莊といへるは、西莊木下膳所中莊四箇村なり、別保は則栗津の別保なり、

〔近江國輿地志略十二〕新羅社○中 尊氏の寄文あり、後記す、

寄進新羅社

近江國栗津別保地頭職事

右當社、昔在去外國變夷之城、遷本朝君子之列以來、明德光于千古、冥祐被于万邦、就中曩祖豫州大守、專抽歸心、厚蒙靈睭、因温往蹤、彌增渴仰、仍奉寄當保、欲表至誠、伏冀皇德與天地俱久、寰海休鯨波之聲、塞垣息虎戎之因、干戈無用、稼穀有年、黎氓考槃、戎狄卒服、寄進之義趣如件、

曆應五年四月二十二日 征夷大將軍正二位行權大納言源朝臣尊氏判

〔近江國輿地志略十六〕大和の莊 是高畑の北、作り道の南、往還よりは西の方三町四方許を大和の莊と云、